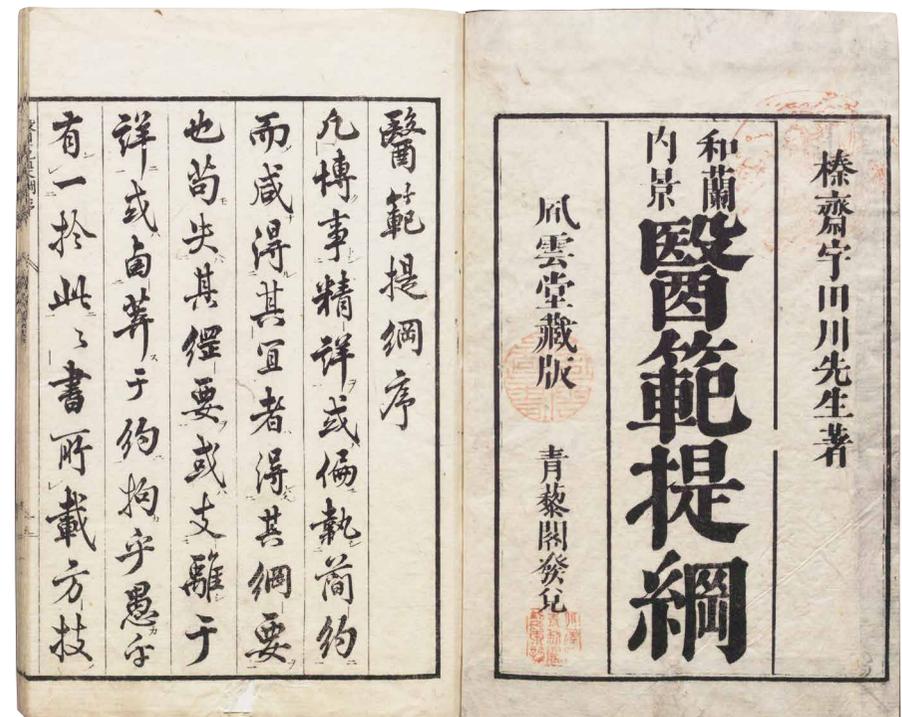


江戸時代の解剖書で最も普及した「和蘭内景 医範提綱」

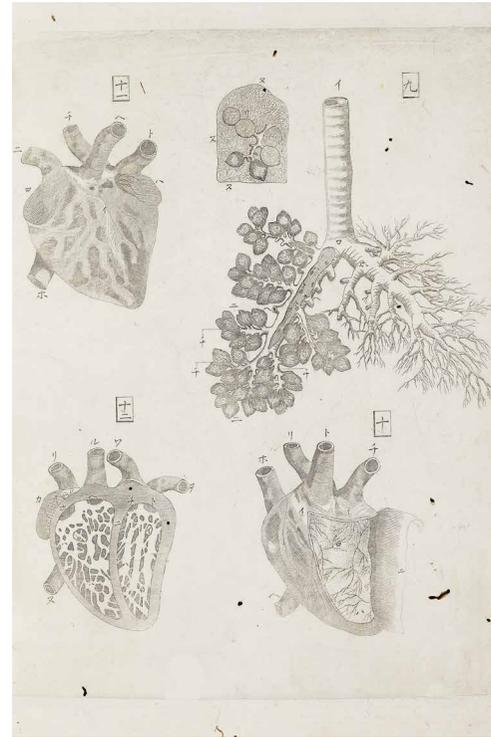


「解体新書」が発行されると、それまで通訳を通して学んでいた医者や学者たちが、自分たちで蘭書を翻訳し、西洋の学問や文化を学ぶ機運が高まりました。次々と出版された翻訳解剖書の中で、最も普及したと言われているのが、
宇田川玄真が1805年に著した「和蘭内景 医範提綱」です。

玄真は本書で、解剖学の他に生理学、病理学も説明しています。ここに掲載され、現在も使われている「大腸・小腸」「すい膵」「せん腺」などの言葉は、玄真の造語によるものです。



い はん てい こう ない しょう どう はん ず
「医範提綱内象銅版図」亜欧堂田善・画



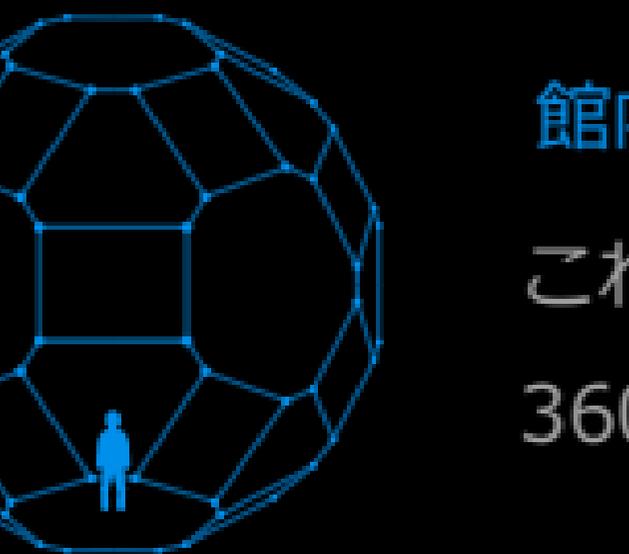
日本初の銅版図を使った解剖図。「医範提綱」刊行から3年後、その附図をより精緻な銅版画で表現しました。

名古屋大学附属図書館医学部分館 所蔵

館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** > <https://www.tcm.it.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介します。デジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.